

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	番組制作 1
科目基礎情報				
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期 前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 60時間
単位数	4単位			授業形態 講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。			
担当教員情報				
担当教員	高沢敦博	実務経験の有無・職種	有 映像制作	
学習目的				
映画・映像評論家とならずとも、製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。				
到達目標				
学生が特に<実習>において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することを目標とする。				
教育方法等				
授業概要	この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。			
注意点	この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話はある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	0%		
	小テスト	0%		
	レポート	40%	着眼点のユニークさと論理性、リスペクトしているかを評価する	
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	40%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画 (1回～15回)				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	イマジナリーラインとは	イマジナリーラインの意味を掴む。 テレビが伝える裏側を考える		
2回	映像に隠された主題を見分ける	丁寧に説明されないことを想像して解明する : グループワーク		
3回	1950年代の映画と技法	現代よりも技術、機材が劣る中での表現を学ぶ		
4回	設定の重要性	2時間以内の起承転結と設定の重要性を理解する		
5回	モンタージュ理論	<編集><モンタージュ>の技法の重要性を学ぶ		
6回	モンタージュ理論(2)	20世紀の戦争映画を通してモンタージュの実際を考える		
7回	撮影・照明技術	画面の色合いと撮影現場とのリンクを取る。		
8回	撮影技術(2)	長回し映像、ワンショット映像の効果と合成技術を理解する		
9回	撮影技術(3) 映画監督の監督性	監督の個性がどのように画面に反映しているのかを考える		
10回	脚本と演出	カメラを置く位置による役者の心情の表現		
11回	映像に隠された主題を見分ける(2)	丁寧に説明されないことを想像して解明する : グループワーク		
12回	社会問題の扱い方	ドキュメンタリーではない社会問題の扱い方法を考える		
13回	巨匠の映画術	映画史に残る巨匠たちのノウハウを言語化する		
14回	ファンタジーの表現法	1950年代日本映画における「夢」の表現		
15回	ファンタジーの表現法(2)	1999年洋画における「夢」の表現		